Effect of Antithrombotic Therapy on Valve Hemodynamics after SAVR with Bioprosthetic Valve

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2025-06-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 松井, 友紀
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003903

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2966 号

Effect of Antithrombotic Therapy on Valve Hemodynamics after SAVR with Bioprosthetic Valve

生体弁を用いた外科的大動脈弁置換術後の抗血栓療法と弁血行動態変化の関連

松井 友紀（まつい ゆき）

博士（医学）

論文内容の要旨

生体弁を用いた外科的大動脈弁置換術（SAVR）後にはワルファリンによる抗凝固療法が 3～6 ヶ月間推奨されていますが、ガイドラインによって推奨内容が異なり、最適な抗血栓療法は不明な点が多くあります。一方、生体弁を用いた経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）後には抗血小板療法が推奨されており、抗血栓療法が生体弁の血行動態に与える影響についての研究は十分に行われていません。本研究は、SAVR 後の抗血栓療法と生体弁の血行動態変化との関係を検討することを目的としました。2013 年 1 月から 2017 年 12 月までに順天堂大学病院と東京ベイ浦安医療センターで SAVR を受けた患者 721 例を対象に後ろ向き観察研究を実施し、術後 3 ヶ月以上アスピリンとワルファリンを併用した「併用療法群」180 例と、いずれか単独で使用した「単剤療法群」312 例に分類しました。主要アウトカムは構造的弁劣化（SVD）の発生率、副次的アウトカムは出血の発生率、さらに平均圧較差（mean PG）の年間変化を評価しました。

Kaplan-Meier 解析では、単剤療法群の SVD 発生率が併用療法群より高く、全体群では p=0.1、傾向スコアマッチング（PSM）後では p=0.05 という結果でした。多変量解析では、単剤療法が全体群（OR: 0.31, 95% CI: 0.08-0.91, p=0.03）および PSM 後（OR: 0.27, 95% CI: 0.07-0.82, p=0.02）の SVD リスク増加と有意に関連していました。一方、出血発生率には両群間で有意差は認められませんでした。また、線形混合モデルでは、単剤療法が併用療法よりも mean PG　の上昇率が高く、その比較では全体群では p<0.01、PSM 後では p<0.01 と一貫した結果が得られました。

これらの結果から、ワルファリンとアスピリンを併用することで SVD リスクを低減し、弁機能を維持できる可能性が示されました。一方、単剤療法ではこれらの効果が不十分である可能性がありました。本研究は、SAVR 後の抗血栓療法の標準化されたガイドライン作成の必要性を強調しています。